

木

どこまでも
どこまでも
歩いて

後ろを振り返れば
ゆるやかに起伏する野原
それだけ

前を見ても
右を見ても
左を見ても

その中で、
遙か前方に
一本だけ

私を守るものは何ひとつなく
ただ
私を包み込むものだけがいる

もう少し歩けば
辿り着きそうな
そんなところにある 一本の木

大気を身にまとい
じっと
生を暖める

ああ、
永遠の中にこそ
死は眠りにつく

何ものにも代えがたいこの生を
委ねることなどできようか
この時間そのものも

一本の木だけがある

明日也
明後日也

(2006.11.12)